

京都市交響楽団 第564回定期演奏会

The 564th Subscription Concert of the Kyoto Symphony Orchestra

常任指揮者・広上淳一の指揮のもと、圧倒的なテクニックと天性の音楽性で度肝を抜く

スペインの若きトランペッター、ルベン・シメオがハイドンの名曲を高らかに奏でます。

広上淳一の勝負曲「幻想交響曲」では、豪華絢爛なオーケストレーションで京響=広上が炸裂！

熱狂的なフィナーレは、まさにフランス・ロマン派音楽の極致！



Photo : Greg Sailor

指揮 広上 淳一 (常任指揮者) Conductor : Junichi HIROKAMI (Chief Conductor)

東京生まれ。東京音大指揮科に学ぶ。1984年、26歳で「第1回キリル・コンドラシン国際青年指揮者コンクール」に優勝。以来、フランス国立管、ベルリン放響、コンセルトヘボウ管、モントリオール響、イスラエル・フィルハーモニー管、ロンドン響、ウィーン響などメジャー・オーケストラへの客演を展開。91~95年にはノールショピング交響楽団、98~2000年にリンブルク交響楽団の各首席指揮者を、97~2001年ロイヤル・リヴァプール・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者、91~2000年には日本フィルハーモニー交響楽団の正指揮者を歴任している。近年では、ヴァンクーヴァー響、ミラノ・ジュゼッパ・ヴェルディ響、サンクトペテルブルク・フィルハーモニー響、ポルティモア響、シンシナティ響、カルガリー・フィルハーモニック、スタヴァンゲル響、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、ポーランド放響、スロヴェニア・フィルハーモニー管、サン・パウロ響等へ客演。06~08年には米国コロバス交響楽団音楽監督を務めヨーヨー・マ、ミドリをはじめ素晴らしいソリストたちとともに数々の名演を残した。07年夏にはサイトウ・キネン・フェスティバル松本に招聘され、ハイドンとラフマニノフ、08年5月には小澤征爾の代役として急遽、水戸室内管弦楽団の指揮台に立ち、モーツァルト、ベートーヴェンほかのプログラムとともに絶賛を博した。オペラ指揮の分野でも89、90年のシドニー歌劇場におけるヴェルディの《仮面舞踏会》や《リゴレット》が高く評価されたのをはじめ、最近では日生劇場《オルフェオとエウリディーチェ》等が記憶に新しい。11年2月には《椿姫》で新国立劇場へデビュー。また、多忙な指揮活動と並行して、母校東京音楽大学教授としても後進の育成に情熱を注いでいる。08年4月から京都市交響楽団常任指揮者。



トランペット ルベン・シメオ Trumpet : Rubén SIMEÓ

1992年スペイン・ヴィーゴ生まれ。トランペット教師である父のもと、市のコンセルヴァトワールで音楽を学び始める。非常に早くから、トランペット演奏に非凡な力を示し、コンサートやテレビ番組に出演し、天才少年として注目を集め、音楽評論家からも、その技術や成熟した音楽的解釈を絶賛される。8歳のときにヴィーゴ市主催の「国際音楽コンクール」で1位を獲得したことを機にソリストとしての活動を開始。ポルトガル、イタリア、フランス、ドイツなどの国際音楽祭にも数多く参加した。モーリス・アンドレのマスタークラスを受けた際、ルベンの才能が巨匠の目にとまり、只ひとりの生徒として研鑽を積んだ。日本では、2008年avexよりデビューCDをリリース。同時にサントリーホールでシエナ・ウインド・オーケストラとの共演で鮮烈なデビューを飾った。2010年に2枚目のCDをリリース。ヨーロッパでは、若干16歳にして、シュトゥットガルトで芸術的才能と突出した演奏に贈られる文化賞を受賞。またフランスの名門、パリ・ギヤルド・レピュブリケーヌ吹奏楽団のソリストに招かれるなど、国際舞台でのキャリアも確実に築いている。日本では、兵庫芸術文化センター管弦楽団、読売日本交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢と共演すると共に、全国でリサイタル・ツアーを行っている。これまでに、10歳で国際ヤマハコンクール(スペイン)第1位。12歳で第6回フィリップ・ジョーンズ国際コンクール(フランス)第2位。13歳でモーリス・アンドレ国際コンクール(フランス)第2位を受賞した。



京都市交響楽団 Kyoto Symphony Orchestra

京都市交響楽団(京響)は、日本唯一の自治体直営オーケストラとして1956年に創立。最近では、楽器講習会や音楽鑑賞教室、福祉施設への訪問演奏などにも積極的に取り組み、07年「第25回京都府文化賞特別功労賞」、「京都創造者大賞2007」受賞。08年4月からは、第12代常任指揮者に広上淳一、桂冠指揮者に大友直人が就任し、09年は「スプリング・コンサート」や「オーケストラ・ディスクカバー」など新企画で注目を集めた。10年11月広上淳一指揮による定期演奏会のライブ録音CD第1弾を発売し、12年2月にはライブ録音CD第2弾を発売。半世紀という節目を経て、「京響」は今、文化芸術都市・京都にふさわしい「世界に誇れるオーケストラ」を目指して更なる前進をはかっている。

次回予告

2012年 11/30(金)から発売!

第565回定期演奏会

トウォルトン没後30年
イギリス音楽の栄華、リーパーのウォルトン
&小曾根真 meets ショスタコーヴィチ!

日時: 2013年2月16日(土) 午後2時30分開演

会場: 京都コンサートホール
指揮: エイドリアン・リーパー
独奏: 小曾根 真(ピアノ)
曲目: ストラヴィンスキー: 管楽器のための交響曲(1920年版)
ショスタコーヴィチ: ピアノ協奏曲第1番八短調op.35
ウォルトン: 交響曲第1番変口短調

入 場 料

◎¥4,500 A ¥4,000 B ¥3,500 P ¥2,000 (舞台後方席)

次回予告

2012年 12/27(木)から発売!

第566回定期演奏会

広上淳一で聴くプロコフィエフ最晩年の叙情
~大陸的なスケール感溢れるクララ=ジュミカンのコロンゴルト

日時: 2013年3月24日(日) 午後2時30分開演

会場: 京都コンサートホール
指揮: 広上 淳一(常任指揮者)
独奏: クララ=ジュミ・カン(ヴァイオリン)
曲目: ハチャトゥリアン: 組曲「仮面舞踏会」
コロンゴルト: ヴァイオリン協奏曲ニ長調op.35
プロコフィエフ: 交響曲第7番嬰八短調op.131

入 場 料

◎¥4,500 A ¥4,000 B ¥3,500 P ¥2,000 (舞台後方席)